

演題番号：8

演題名：食鳥処理場における肝臓廃棄削減への取り組み

発表者名：○松岡弘毅、長嶺ゆり、小田英治、今井隆之、玉代勢旦子

発表者所属：北部食肉衛生検査所

### 1. はじめに

当所管内食鳥処理場（農場～処理場一貫経営）より、肝臓廃棄を削減する対策について相談があった。事前調査として食鳥処理衛生管理者（以下衛生管理者）による内臓摘出後検査に係る確認作業で『病変あり』とされた肝臓について病変の調査を行った。その調査の過程で、病変の認められない肝臓が確認作業後にみられたことから、衛生管理者による確認作業工程に課題および改善点があると考えられた。そこで今回、確認作業工程について分析し、得られた分析結果を基に検査環境の改善指導および衛生管理者への講習会を行ったところ、廃棄状況の改善が見られたのでその内容を報告する。

### 2. 事前調査（肝臓病変の調査）

衛生管理者による確認作業で『病変あり』とされた肝臓 1505 個について病変の調査を行ったところ、肝包膜炎が 34.9%で最も多く、脂肪変性が 27.0%と次いで多かった。この調査結果を元に農場での飼養管理を再確認するよう助言を行った。また、これらの肝臓を精査したところ、10.9%に病変が認められなかった。そこで、病変の認められない肝臓の廃棄を削減するため確認作業工程の分析を行った。

### 3. 確認作業工程の課題および改善点

衛生管理者による病変確認状況および作業環境について分析を行った結果、①自動中抜き機の調整不足等による確認時間不足②衛生管理者間での判断基準の差③照度不足、場内の蒸気による視界不良が課題としてあげられた。

### 4. 事業者および衛生管理者への改善指導

衛生管理者による確認作業を効果的に行うため、①自動中抜き機の調整②衛生管理者への講習会開催③照明設備、換気設備の点検修理、増設の指示を行った。

### 5. 改善指導後の結果（肝臓病変の調査）

指導後、事前調査と同様に『病変あり』とされた肝臓 875 個について肝臓病変の調査を行った結果、3.7%に病変が認められなかったが、指導前の 1/3 に減少した。

### 6. 考察およびまとめ

肝臓の廃棄状況は 10.9%から 3.7%に改善し、今回行った指導が有効であったことが示唆された。改善指導において、数値や写真を用いながらわかりやすく説明を行い、現在の状況に危機感を持ってもらえたこと、現場の作業員と直接意見を交わし共に考える事によって改善意欲を持ってもらえたことが効果的な指導が出来た要因と考えられる。今後も、機械の補修点検を徹底する体制作りの指導、衛生管理者へ向けた定期的な講習会を行い、より機能的な検査態勢の構築・維持へ向け食鳥処理場と連携していきたい。